

明治時代における 「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的考察

蘇 文 鑫

Abstract

The word utsukushii, which has been used since the Nara period, is one of the most functionally significant words that express the notion of "beauty". The frequent modern usage of the word kireida has subtle differences from utsukushii; therefore, the two words are often compared as synonyms. This study will focus on the words utsukushii and kireida, in order to clarify the functional distinction of these two words. The scope of the investigation is centered on the Meiji period and the Taisho period. This essay is a quantitative study of utsukushii and kireida in the Meiji period as the basics of consideration. The conclusion is that kireida is used much more by authors such as Natsume Souseki. Furthermore, and the characteristic novels, like 『Sokkyousijin』 『Gubijinsou』 『Inakakyousi』, ect will be investigated mainly by consulting the usage trend of the authors' writing career.

キーワード……美に関する語彙 数量的分析 用例数 使用率

1.はじめに

筆者は、前稿において美に関する語彙の研究史を通覧した¹⁾。その結果、「ウツクシイ」は美を表す語としての歴史が長く、意味的にも中核の位置を占めていること、「ウツクシイ」の類義語として現在頻繁に使用される「キレイ（ダ）」は、中世以降に使用されるようになること、この2語に関する先学の研究は、上代から中世までの文献を対象とすることが多く、近代・現代の文献を対象とするものはきわめて稀であることが分かった。この2語については、かつて秋葉直樹(1969)が、「その間に微妙な意味の差、ニュアンスがある」と述べたことがあったが、その差を明確にするには至っていない²⁾。

そこで、本稿では近現代における「ウツクシイ」と「キレイ（ダ）」の意味・用法の違いを究明する前段階として、明治の作家たちが使用した2語についての数量的分析を行うこととした³⁾。2語の用例数や使用率を詳細に分析し、特徴が見られる作品や作家を認めることができたならば、それはそのまま2語の意味・用法の解明に直結すると考えたからである。

なお、「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」は、本文中ではそのまま表記するが、表においては「ウツクシ」「キレイ」のように略称を用いることにした。また、本稿で使用する表は、すべて筆者によるものである。

2. 調査対象資料

2.1 調査対象資料の選定理由

近代語研究においては、『太陽コーパス—雑誌「太陽」日本語データベース—』（国立国語研究所、2005）が利用されることが多い（以下『太陽コーパス』とする）。『太陽コーパス』は、明治大正期に発行された総合雑誌『太陽』（博文館）を対象とし、1895年、1901年、1909年、1917年、1925年の5ヶ年分の通常号の全文を抽出して作られたコーパスである⁴⁾。雑誌『太陽』は、1895年（明治28）1月1日に刊行され、30年余りにわたって存続した総合雑誌である。他誌に比べて桁違いの発行部数で、時代を代表する雑誌であったとされている⁵⁾。学術、政治、産業から戯曲や小説に至るまで様々なジャンルの文章を含む、近代を代表する書き言葉資料の集合体であるとも言われる⁶⁾。

この『太陽コーパス』を調査してみると、「ウツクシ」は 679 例、「キレイ（ダ）」は 222 例それぞれ看取された。また、2語の用例が看取された作品には、様々なジャンルがあった。日本十進分類法の分類番号 NDC913、933、983「小説・物語」、NDC811「音声音韻文字」、NDC720「絵画」や NDC646「家畜各論」などが挙げられる。これを分類したものが〈表1〉である。〈表1〉は、NDC100台を単位として分類したものである。

〈表1〉『太陽コーパス』における分類

研究対象語	単位：NDC100台									
	NDC 900台	NDC 800台	NDC 700台	NDC 600台	NDC 500台	NDC 400台	NDC 300台	NDC 200台	NDC 100台	NDC 000台
ウツクシ	392	2	68	10	17	10	56	78	23	23
キレイ	147		15		2	11	26	18	2	1

〈表1〉から分かるように、2語はともに NDC900台に圧倒的に多く見られる。900台は「小説・物語」、「評論集」、「詩歌」、「英米文学」、「日記」など文学関係の作品がほとんどである。

このことから2語は、800台の「音声音韻」、600台の「家畜」や「商業」などの分野より、900台の文学関係の分野において頻繁に使用されることが分かるのである。

ちなみに、NDC900台をジャンル別に詳細に示すと〈表2〉のようになる⁷⁾。

〈表2〉NDC900台の内訳

研究対象語	ジャンル							その他
	小説・物語			詩歌	劇曲	評論 随筆	日記 簡紀行	
	NDC 913	NDC 933	NDC 983	NDC 911	NDC 912	NDC 914	NDC 915	
ウツクシ	260			32	5	20	34	41
キレイ	100			24	6		5	12

文学に関する900台のジャンルにおいては、「小説・物語」の用例数が最も多いことが分かる。これらのことから、2語は文学作品の「小説・物語」に多く用いられることが分かった。ただ、『太陽コーパス』は明治後期から大正初期の、わずかに5ヶ年分を取り扱っているのみで、しかも作家1名当たり、2～3作品を収録しているに過ぎない。

そこで本稿では、1888年（明治21）から1916年（大正5）にわたって、作家13名の作品が収録されている『新潮文庫 明治の文豪』【CD-ROM版】（以下『明治の文豪』とする）を利用することにした⁸⁾。

2.2 調査対象資料の詳細

『明治の文豪』に収録されている作家 13 名のうち、上田敏と石川啄木の作品は詩歌集であり、小泉八雲は日本語の非母語話者であるため除外し、10 名の作家の作品を調査することにした。

なお『明治の文豪』においては、尾崎紅葉と長塚節はそれぞれ 1 作品しか収録されていないため、あわせて『現代日本文学全集』に収録されている作品も取り上げることにした⁹⁾。その結果、『明治の文豪』における作家 10 名のうち、森鷗外、伊藤左千夫、尾崎紅葉、田山花袋、樋口一葉、泉鏡花、長塚節の作品数を拡充することができ、調査年数もまた 1887 年（明治 20）から 1923 年（大正 13）までをカバーすることができた。

3.調査対象資料の分析

3.1 使用作品から見た考察

前節に挙げた資料から「ウツクシイ」と「キレイ（ダ）」を抽出し、その用例数を以下の〈表 3〉から〈表 12〉にまとめた。表は、作品の発表年順に示している。また、作家名は略称を用いた。「/」は用例数が 0 であることを示している。

〈表3〉紅葉

発表年	作品名	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治20	色懺悔	/	/
明治23	枯華微笑	5	/
明治28	心の闇	3	/
明治26	青葡萄	/	2
明治35	金色夜叉	5	3
合計		13	5

〈表4〉四迷

発表年	作品名	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治21	あひびき	3	/
明治21	めぐりあひ	7	/
明治29	片恋	5	/
明治30	浮雲	11	4
明治31	くされ縁	/	/
明治39	其面影	3	3
明治40	平凡	2	5
合計		31	12

明治時代における「ウツクシイ」「キレイ(ダ)」の数量的考察(蘇文鑫)

(表5) 黽外

発表年	作品名	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治23	舞姫	3	/
明治23	うたかたの記	4	/
明治24	文づかひ	6	/
明治34	即興詩人	177	/
明治42	半日	4	/
明治42	キタ・セクスアリス	10	8
明治42	金貨	/	/
明治42	灰燼	/	/
明治42	追儼	/	3
明治42	鶏	/	1
明治43	杯	2	/
明治43	青年	14	14
明治43	あそび	/	1
明治43	普請中	1	/
明治43	沈黙の塔	/	/
明治44	カズイステカ	/	/
明治44	妄想	3	/
明治44	雁	20	10
明治44	百物語	1	/
明治45	かのやうに	1	3
明治45	興津弥五右衛門の遺書	/	/
大正2	阿部一族	/	1
大正2	護寺院原の敵討	/	/
大正3	大鹽平八郎	/	/
大正3	安井夫人	8	/
大正3	塚事件	/	/
大正4	山椒大夫	1	/
大正4	二人の友	1	/
大正4	余興	2	/
大正4	じいさんばあさん	/	/
大正4	最後の一句	/	/
大正5	相原品	3	/
大正5	高瀬舟	/	/
大正5	寒山拾得	/	/
大正5	高瀬舟縁起	/	/
大正5	寒山拾得縁起	/	/
合計		261	41

(表6) 一葉

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治25	闇桜	/	/
明治25	うまれ木	2	1
明治26	暁月夜	1	/
明治27	大つごもり	1	/
明治28	ゆく雲	2	1
明治28	うつせみ	1	3
明治28	にこりえ	/	3
明治28	十三夜	1	/
明治29	たけくらべ	4	4
明治29	わかれ道	/	/
明治29	われから	8	1
合計		20	13

(表7) 鏡花

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治28	外科室	/	/
明治29	海城発電	1	/
明治29	化銀杏	/	/
明治29	照葉狂言	4	2
明治33	高野聖	6	1
明治38	女客	2	/
明治40	婦系図	18	11
明治43	歌行燈	6	/
明治43	蘆巻	2	1
明治43	国貞ゑがく	2	/
大正3	日本橋	17	10
大正9	売色鴨南蛮	3	6
大正13	眉かしくの霊	8	1
合計		69	32

(表8) 独歩

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治29	たき火	/	/
明治29	星	/	/
明治30	源叔父	3	/
明治30	おとづれ	1	/
明治31	武蔵野	4	/
明治31	糸くず	/	/
明治31	詩想	/	/
明治31	忘れえぬ人々	1	/
明治31	まぼろし	1	/
明治31	死	/	/
明治31	鹿狩	1	1
明治31	河霧	1	/
明治31	わかれ	4	/
明治33	遺言	/	/
明治33	郊外	1	/
明治33	初恋	/	/
明治33	置土産	/	/
明治33	小春	/	/
明治33	初孫	/	/
明治34	牛肉と馬鈴薯	/	/
明治35	巡查	/	/
明治35	富岡先生	2	/
明治35	少年の悲哀	/	/
明治35	空知河の岸辺	/	/
明治35	酒中日記	2	/
明治36	運命論者	/	/
明治37	春の鳥	/	/
明治39	号外	/	/
明治40	疲労	/	/
明治40	渚	/	/
明治41	竹の木戸	/	/
明治41	岡本の手帳	/	/
明治41	二老人	/	/
明治41	窮死	/	/
合計		21	1

(表9) 花袋

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治35	重右衛門の最後	17	/
明治40	蒲団	27	2
明治41	一兵卒	2	/
明治41	生	31	11
明治42	田舎教師	39	19
大正3	明るい茶の間	/	/
大正3	トコヨゴミ	2	1
大正4	合歓の花	5	/
大正5	旅の者	/	/
大正5	黄い小さい花	/	/
大正5	時は過ぎゆく	7	2
大正5	山荘にひとりゐて	/	/
大正6	一兵卒の銃殺	/	/
大正6	剃刀と鉄	/	/
大正7	芍薬	/	/
大正7	ある僧の奇跡	10	8
大正7	女の留守の間	3	/
大正7	残雪	2	/
大正7	黄い麥畠	1	2
大正8	再び草の野に	/	/
合計		146	45

〈表10〉漱石

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治38	吾輩は猫である	14	18
明治38	倫敦塔	4	2
明治38	カーライル博物館		
明治38	幻影の盾	2	2
明治38	琴のそら音		
明治38	一夜	5	
明治38	薤露行	12	
明治39	趣味の遺伝	7	3
明治39	坊っちゃん	4	7
明治39	草枕	37	13
明治39	二百十日		4
明治40	虞美人草	37	44
明治40	野分	15	11
明治41	坑夫	3	8
明治41	文鳥	1	5
明治41	夢十夜		2
明治41	三四郎	27	32
明治42	永日小品	8	10
明治42	それから	17	24
明治43	門	8	23
明治43	思ひ出す事など	6	2
明治44	ケーベル先生	1	
明治44	変な音	1	
明治44	手紙	2	
大正元	彼岸過迄	26	24
大正元	行人	22	17
大正3	こころ	13	7
大正4	硝子戸の中	10	7
大正4	道草	4	10
大正5	明暗	17	29
	合計	303	304

〈表11〉長塚節

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治39	炭焼のむすめ	1	
明治43	土		3
	合計	1	3

〈表12〉左千夫

発表年	作品	用例数	
		ウツクシ	キレイ
明治39	野菊の墓	4	3
明治40	水籠		
明治41	浜菊		
明治42	姪子		1
明治45	守の家		1
	合計	4	5

〈表3〉から〈表12〉により、各作家における2語が看取される作品の数、2語の用例総数及び作品ごとの用例数が分かる。

これらの表を概観すると、「ウツクシ」「キレイ(ダ)」が看取される作品と看取されない作品があることが分かる。2語が看取される作品を「使用作品」とし、使用作品数の、当該作家

〈表13〉使用作品数と使用作品率

作家	作品総数	使用作品数			使用作品率(%)		
		ウツクシ (ウツクシのみ)	キレイ (キレイのみ)	何れか1語	ウツクシ	キレイ	何れか1語
紅葉	5	3 (2)	2 (1)	4	60	40	80
四迷	7	6 (3)	3 (0)	6	86	43	86
鷗外	36	18 (13)	9 (4)	21	60	25	58
一葉	11	8 (3)	6 (1)	9	73	55	82
鏡花	13	11 (4)	7 (0)	11	85	54	85
独歩	34	11 (10)	1 (0)	11	32	3	32
花袋	20	12 (5)	7 (0)	12	60	35	60
漱石	30	26 (5)	23 (2)	28	87	77	93
長塚節	2	1 (1)	1 (1)	2	50	50	100
左千夫	5	1 (0)	3 (2)	3	20	60	60

の作品総数に対する比率を「使用作品率」とする。それぞれに「ウツクシ」「キレイ」「何れか1語」の下位項目を設けてまとめたものが〈表13〉である。

〈表13〉における使用作品数の「ウツクシ」「キレイ」欄は、2語がそれぞれ看取される作品数を示している。「ウツクシのみ」「キレイのみ」が看取される作品数は括弧に包んで

示した。「何れか1語」欄は、2語のうち何れか1語が看取される作品数を示している。使用作品率の「ウツクシ」「キレイ」欄の数値は、それぞれの使用作品数を作品総数で割ったものであり、「何れか1語」欄の数値は何れか1語が看取される作品数を作品総数で割ったものである。

3.1.1 使用作品率の「ウツクシ」「キレイ」

まず、〈表 13〉における使用作品率を見ると、「ウツクシ」は四迷、鏡花、漱石が80%以上であった。この3名のうち、漱石の作品数は他の2名よりも圧倒的に多い。したがって、漱石の「ウツクシ」の使用作品率はかなり高いことが分かる。一方、使用作品率の低い作家は独歩と左千夫である。

「キレイ（ダ）」の使用作品率については、漱石が最も高く、次いで左千夫である。鷗外と独歩は低い。中でも独歩は34作品あるにもかかわらず、「キレイ（ダ）」の使用作品率はわずか3%であって、きわめて低いことが分かる。

また、使用作品率における「ウツクシ」「キレイ」欄の数値を比べてみると、2語が同数である長塚節を除き、四迷、鏡花、漱石などが「ウツクシ」の方が高いのに対し、左千夫は「キレイ（ダ）」の方が高い。また、四迷など「ウツクシ」の使用作品率が高い作家のうち、「キレイ（ダ）」との差が最も小さい作家は漱石である。漱石は比較的高率で「キレイ（ダ）」を使用する作家とすることができる。

3.1.2 使用作品率の「何れか1語」

次に、使用作品率の「何れか1語」欄を見ると、長塚節（100%）以外では漱石（93%）が最大値であった。作品総数が、同じく30作品以上の鷗外と独歩とを比べると、漱石の使用作品率の「何れか1語」が93%にも上ったことは、漱石が多く作品に2語を使用していたことを示唆するものである。一方、独歩は作品総数が30以上あるにもかかわらず、使用作品率の「何れか1語」は最小値（32%）になっている。これは独歩が、限られた作品にだけ2語を使用していたことを示唆するものであろう。

3.1.3 使用作品数の「ウツクシのみ」「キレイのみ」

最後に、使用作品数の「ウツクシのみ」「キレイのみ」欄を見る。「ウツクシ」「キレイ（ダ）」の2語が単独で数多くの作品に使用されるということは、2語の意味・用法を考える上で、きわめて興味深いことである。

「ウツクシのみ」がとりわけ多い作家は、鷗外と独歩である。独歩は、使用作品率の「何れか1語」が最小値を示す作家であるため、2語は限られた作品に用いられていたことになる。特に、「ウツクシ」だけをを用いることが多いようである。また紅葉、四迷、鷗外などの作家が「ウツクシ」を多くの作品に用いるのに対し、左千夫は「キレイ（ダ）」を使用した。「ウツ

クシイ」を多く使用する作家の中では、漱石に「キレイ（ダ）」を使用する傾向が強く窺えるようである。

以上、「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」が看取される作品数、その比率について分析を行った結果、何人かの特徴が見られる作家がいることが分かった。ただ、これは2語の使用特徴の一つではあるが、作品数から得られた結果にすぎない。そこで、次項では用例数を取り上げて分析を行いたい。その方法としては、まず各作家における用例総数を比較し、2語の用例総数の全体像を把握する。次いで、作家ごとに用例数が多い作品と、2語の用例数に大きな差が見られる作品を抽出して検討を行う。

3.2 用例数から見た考察

3.2.1 用例総数

改めて、3.1「使用作品から見た考察」に掲げた〈表3〉から〈表12〉の用例総数を確認したい。他の作家と比べて、長塚節と左千夫の用例数がきわめて少ないことが分かる。一方、用例数が最も多いのは漱石である。

また、長塚節と左千夫を除き、紅葉、四迷、鷗外などの作家が「ウツクシイ」が多いのに対し、漱石における2語の用例総数はほぼ同じである。このことを3.1.1に示した使用作品率と照らし合わせて見ると、漱石は他の作家より「キレイ（ダ）」を多用することが分かる。

3.2.2 用例数の多い作品

〈表3〉から〈表12〉に掲げた作品の用例数について、まず作家ごとに用例数の多い順に3作品を挙げる。作品数が3以下の場合には全て挙げることにした。なお、括弧内の数値は用例数である。

紅葉「ウツクシイ」：『拈華微笑』（5）『金色夜叉』（5）『心の闇』（3）

「キレイ（ダ）」：『金色夜叉』（3）『青葡萄』（2）

四迷「ウツクシイ」：『浮雲』（11）『めぐりあひ』（7）『片恋』（5）

「キレイ（ダ）」：『平凡』（5）『浮雲』（4）『其面影』（3）

鷗外「ウツクシイ」：『即興詩人』（177）『雁』（20）『青年』（14）

「キレイ（ダ）」：『青年』（14）『雁』（10）『キタ・セクスアリス』（8）

一葉「ウツクシイ」：『われから』（8）『たけくらべ』（4）『ゆく雲』（2）¹⁰⁾

「キレイ（ダ）」：『たけくらべ』（4）『にごりえ』（3）『うつせみ』（3）

鏡花「ウツクシイ」：『婦系図』（18）『日本橋』（17）『眉かしくの霊』（8）

「キレイ（ダ）」：『婦系図』（11）『日本橋』（10）『売色鴨南蛮』（6）

独歩「ウツクシイ」：『武蔵野』（4）『わかれ』（4）『源叔父』（3）

- 「キレイ（ダ）」：『鹿狩』（1）
花袋「ウツクシイ」：『田舎教師』（39）『生』（31）『蒲団』（27）
「キレイ（ダ）」：『田舎教師』（19）『生』（11）『ある僧の奇跡』（8）
漱石「ウツクシイ」：『草枕』（37）『虞美人草』（37）『三四郎』（27）
「キレイ（ダ）」：『虞美人草』（44）『三四郎』（32）『明暗』（29）
長塚節「ウツクシイ」：『炭焼のむすめ』（1）
「キレイ（ダ）」：『土』（3）
左千夫「ウツクシイ」：『野菊の墓』（4）
「キレイ（ダ）」：『野菊の墓』（3）『姪子』（1）『守の家』（1）

以上によれば、2語の用例数が何れも多い作品がある。

紅葉『金色夜叉』、四迷『浮雲』、鷗外『青年』『雁』、一葉『たけくらべ』、鏡花『婦系図』『日本橋』、花袋『田舎教師』『生』、漱石『虞美人草』、左千夫『野菊の墓』である。

3.2.3 用例数の差が大きい作品

「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」には、意味・用法の違いが存在するはずである。そしてその一端は、2語の用例数の差にも現れるのではないかと考える。

そこで、2語が何れも看取される作品を対象として、作家ごとに2語の用例数の差が最も大きい作品を挙げてみた。括弧内は用例数の差の数値である。なお、独歩における2語の用例数の差は0であり、長塚節においては2語が何れも看取される作品がないため、この2名を除外した。

紅葉『金色夜叉』（2）、四迷『浮雲』（7）、鷗外『雁』（10）、一葉『われから』（7）、鏡花『婦系図』（7）『日本橋』（7）、花袋『蒲団』（25）、漱石『草枕』（20）、左千夫『野菊の墓』（1）である。

3.3 使用率から見た考察

前項では用例数の観点から分析した。しかし、作品ごとのボリュームが異なるため、2語の使用傾向は用例数からだけでは一概には言えない。そこで、作品ごとの単語総数（概数）を調べ、それに対する2語の用例数の比率、すなわち使用率の観点からの検討を行う必要がある¹¹⁾。

3.3.1 作家ごとの平均使用率

作品ごとの使用率と作品の単語総数は、〈表 14〉から〈表 23〉に示した通りである。使用率から作家ごとの平均使用率を計算し、その平均使用率より高い使用率を示すものに網掛けを施した。使用率は千分率の‰（パーミル）で、小数点以下2位まで表示した。小数点以下3位ま

でのものは0として「/」で示した。千分率まで求めるのは、あまりにも小さな数値を問題として映るかもしれないが、用例数とともに使用率を検討することは、より詳細に2語の相違を考える上で必要なことだと考えている。

(表14)紅葉

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治23	拈華微笑	0.58	/	8700
明治28	心の闇	0.16	/	19000
明治26	青葡萄	/	0.11	18000
明治35	金色夜叉	0.02	0.01	251000
平均使用率		0.19	0.03	

(表15)四迷

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治21	あひびき	0.38	/	8000
明治21	めぐりあひ	0.29	/	24000
明治29	片恋	0.09	/	52000
明治30	浮雲	0.01	0.04	109000
明治39	其面影	0.03	0.03	115000
明治40	平凡	0.03	0.06	77000
平均使用率		0.14	0.03	

(表16)鷗外

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治23	舞姫	0.02	/	15000
明治23	うたかたの記	0.31	/	13000
明治24	文づかひ	0.46	/	13000
明治34	即興詩人	0.64	/	275000
明治42	半日	0.27	/	15000
明治42	キタ・セクスアリス	0.19	0.15	54000
明治42	追雛	/	0.97	3100
明治42	鶏	/	0.06	17000
明治43	杯	0.77	/	2600
明治43	青年	0.12	0.12	115000
明治43	あそび	/	0.12	8600
明治43	普請中	0.26	/	3900
明治44	妄想	0.26	/	12000
明治44	雁	0.29	0.15	68000
明治44	百物語	0.09	/	11000
明治45	かのやうに	0.05	0.15	20000
大正2	阿部一族	/	0.04	24000
大正3	安井夫人	0.8	/	10000
大正4	山椒大夫	0.05	/	20000
大正4	二人の友	0.09	/	11000
大正4	余興	0.56	/	3600
大正5	榻原品	0.45	/	67000
平均使用率		0.26	0.08	

(表17)一葉

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治25	うれ木	0.13	0.07	15000
明治26	暁月夜	0.06	/	16000
明治27	大つごもり	0.13	/	8600
明治28	ゆく雲	0.26	0.13	8300
明治28	うつせみ	0.13	0.38	8100
明治28	にぎりえ	/	0.18	17000
明治28	十三夜	0.09	/	11000
明治29	たけくらべ	0.17	0.17	24000
明治29	われから	0.37	0.05	22000
平均使用率		0.14	0.11	

(表18)鏡花

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治29	海城発電	0.09	/	11000
明治29	照葉狂言	0.09	0.05	44000
明治33	高野聖	0.17	0.03	35000
明治38	女客	0.03	/	8000
明治40	婦系図	0.01	0.07	166000
明治43	歌行燈	0.17	/	35000
明治43	櫛巻	0.23	0.12	8700
明治43	国貞翁がく	0.13	/	15000
大正3	日本橋	0.21	0.12	82000
大正9	売色鴨南蛮	0.23	0.46	13000
大正13	眉かしくの霊	0.03	/	26800
平均使用率		0.13	0.08	

(表19)独歩

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治30	源叔父	0.03	/	10000
明治30	おとづれ	0.08	/	15000
明治31	武蔵野	0.31	/	13000
明治31	忘れえぬ人	0.13	/	8500
明治31	まぼろし	0.25	/	5100
明治31	鹿狩	0.17	0.17	7900
明治31	河霧	0.14	/	7000
明治31	わかれ	0.4	/	13000
明治33	郊外	0.13	/	11000
明治35	富岡先生	0.14	/	14000
明治35	酒中日記	0.08	/	25000
平均使用率		0.17	0.02	

(表20)花袋

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治35	重右衛門の最後	0.41	/	42000
明治40	蒲団	0.63	0.05	43000
明治41	一兵卒	0.26	/	8000
明治41	生	0.33	0.12	95000
明治42	田舎教師	0.3	0.15	130000
大正3	トコヨゴミ	0.13	0.06	16000
大正4	合歡の花	0.3	/	17000
大正5	時は過ぎゆく	0.04	0.01	184000
大正7	ある僧の奇跡	0.32	0.26	31000
大正7	女の留守の間	0.03	/	9600
大正7	残雪	0.02	/	139000
大正7	黄い麥畠	0.11	0.21	9400
平均使用率		0.22	0.07	

〈表21〉漱石

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治38	吾輩は猫である	0.04	0.06	315000
明治38	倫敦塔	0.28	0.14	14000
明治38	幻影の盾	0.1	0.1	20000
明治38	一夜	0.75		6600
明治38	薩露行	0.6		20000
明治39	趣味の遺伝	0.21	0.09	34000
明治39	坊っちゃん	0.05	0.08	84000
明治39	草枕	0.4	0.14	94000
明治39	二百十日		0.1	40000
明治40	虞美人草	0.16	0.19	234000
明治40	野分	0.14	0.1	107000
明治41	坑夫	0.02	0.05	148000
明治41	文鳥	0.09	0.46	11000
明治41	夢十夜		0.12	17000
明治41	三四郎	0.15	0.18	182000
明治42	永日小品	0.17	0.02	48000
明治42	それから	0.09	0.12	190000
明治43	門	0.06	0.16	146000
明治43	思ひ出す事など	0.11	0.04	53000
明治44	ケーベル先生	0.3		3300
明治44	変な音	0.26		3800
明治44	手紙	0.18		11000
大正元	彼岸過迄	0.14	0.13	187000
大正元	行人	0.09	0.07	242000
大正3	こころ	0.08	0.04	165000
大正4	硝子戸の中	0.18	0.13	55000
大正4	道草	0.02	0.06	171000
大正5	明暗	0.05	0.08	373000
平均使用率		0.17	0.1	

〈表22〉長塚節

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治39	炭焼のむすめ	0.16		6200
明治43	土		0.01	210000
平均使用率		0.08		

〈表23〉左千夫

発表年	作品	使用率(%)		単語総数
		ウツクシ	キレイ	
明治39	野菊の墓	0.13	0.1	31000
明治42	姪子		0.2	5600
明治45	守の家		0.33	3600
平均使用率		0.04	0.21	

まず、作家ごとの平均使用率の高い順に並べてみると、「ウツクシイ」においては、鷗外(0.28)、紅葉(0.25)、花袋(0.22)、漱石(0.17)、一葉(0.17)、独歩(0.17)、四迷(0.14)、鏡花(0.13)である。「キレイ(ダ)」においては、鷗外(0.29)、左千夫(0.21)、一葉(0.16)、漱石(0.12)、花袋(0.12)、鏡花(0.1)、紅葉(0.06)、四迷(0.04)である。2語の平均使用率が何れも最も高い作家は鷗外である。

次に、作家ごとに網掛けを施した作品を、使用率の高い順に3作品を挙げる。網掛けの作品数が3以下の場合、その全てを挙げた。

- 紅葉「ウツクシイ」:『拈華微笑』(0.58)
 「キレイ(ダ)」:『青葡萄』(0.11)
- 四迷「ウツクシイ」:『あひびき』(0.38)『めぐりあひ』(0.29)
 「キレイ(ダ)」:『平凡』(0.06)
- 鷗外「ウツクシイ」:『安井夫人』(0.8)『杯』(0.77)『即興詩人』(0.64)
 「キレイ(ダ)」:『追儼』(0.97)
- 一葉「ウツクシイ」:『われから』(0.37)『ゆく雲』(0.26)『たけくらべ』(0.17)
 「キレイ(ダ)」:『うつせみ』(0.38)『にごりえ』(0.18)『たけくらべ』(0.17)
- 鏡花「ウツクシイ」:『売色鴨南蛮』(0.23)『櫛巻』(0.23)『日本橋』(0.21)
 「キレイ(ダ)」:『売色鴨南蛮』(0.46)『櫛巻』(0.12)『日本橋』(0.12)
- 独歩「ウツクシイ」:『わかれ』(0.4)『武蔵野』(0.31)『まぼろし』(0.25)
 「キレイ(ダ)」:『鹿狩』(0.17)
- 花袋「ウツクシイ」:『蒲団』(0.63)『重右衛門の最後』(0.41)『生』(0.33)
 「キレイ(ダ)」:『ある僧の奇跡』(0.26)『黄い麥島』(0.21)『田舎教師』(0.12)
- 漱石「ウツクシイ」:『一夜』(0.75)『倫敦塔』(0.28)『変な音』(0.26)
 「キレイ(ダ)」:『文鳥』(0.46)『虞美人草』(0.19)『三四郎』(0.18)
- 左千夫「キレイ(ダ)」:『守の家』(0.33)

先述した、用例数から得られた結果と照らし合わせて見ると、「ウツクシイ」においては、紅葉『拈華微笑』、四迷『めぐりあひ』、鷗外『即興詩人』、一葉『われから』『ゆく雲』『たけくらべ』、鏡花『日本橋』、独歩『わかれ』『武蔵野』、花袋『蒲団』『生』、「キレイ(ダ)」においては、紅葉『青葡萄』、四迷『平凡』、一葉『たけくらべ』、鏡花『売色鴨南蛮』『日本橋』、花袋『ある僧の奇跡』『田舎教師』、漱石『虞美人草』『三四郎』、左千夫『守の家』が用例数が多く、使用率も高い作品であることが分かる。

3.3.2 単語総数から見た使用率

先に掲げた表に明らかのように、作品には単語総数が10万語以上のものもあれば、2600語程度のものもある。単語総数が少なければ、用例数によっては使用率が高くなることは避けられない。そこで、単語総数が10万語以上の作品を多い順に並べ、使用率を見ることにした。

〈表24〉単語総数表

発表年	作家	作品	使用率(%)		単語総数
			ウツクシイ	キレイ	
大正5	漱石	明暗	0.05	0.08	373000
明治38	漱石	吾輩は猫である	0.04	0.06	315000
明治34	鷗外	即興詩人	0.64	0.16	275000
明治35	紅葉	金色夜叉	0.02	0.01	251000
大正元	漱石	行人	0.1	0.07	242000
明治40	漱石	虞美人草	0.16	0.19	234000
明治43	長塚節	土	0.01	0.01	210000
明治42	漱石	それから	0.09	0.13	190000
大正元	漱石	彼岸過迄	0.14	0.13	187000
明治41	漱石	三四郎	0.15	0.18	182000
大正5	花袋	時は過ぎゆく	0.04	0.01	184000
大正4	漱石	道草	0.02	0.06	171000
明治40	鏡花	婦系図	0.11	0.07	166000
大正3	漱石	こころ	0.08	0.04	165000
明治43	漱石	門	0.06	0.16	146000
大正7	花袋	残雪	0.02	0.02	139000
明治42	花袋	田舎教師	0.3	0.15	130000
明治43	鷗外	青年	0.12	0.12	115000
明治30	四迷	其面影	0.03	0.03	115000
明治40	漱石	野分	0.14	0.1	107000

その結果は〈表 24〉に示した通りである。網掛けは同様に、作家ごとの平均使用率よりも高い使用率を示すものである。

〈表 24〉から分かるように、鷗外『即興詩人』、漱石『虞美人草』『三四郎』『門』『それから』『彼岸過迄』、花袋『田舎教師』は単語総数が 10 万語以上であるにもかかわらず、2 語の使用率が作家ごとの平均使用率を上回っている。これらの作品をさらに詳細に分析・検討することが、「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の意味・用法の解明につながるのではないかと考えている。

4. まとめ

今回の考察から分かったことは、次の諸点である。

- (1) 「ウツクシイ」と「キレイ（ダ）」が看取された作品数と用例数を見ると、紅葉、四迷、鷗外、花袋などの作家は「ウツクシイ」を多く使用するのに対し、長塚節と左千夫は「キレイ（ダ）」を多く使用する。ただし、この2名は作品数と用例数が少ないため、必ずしも他の作家よりも多く「キレイ（ダ）」を使用するとは断言できない。一方、2語がほぼ同数である漱石は、他の作家よりも「キレイ（ダ）」が看取される作品数も用例数も多い。そのため、漱石は取り上げた作家の中では、比較的「キレイ（ダ）」を多用する傾向があると言える。反対に独歩は、作品数が 30 以上あるにもかかわらず、2語が看取される作品数も用例数も少ない。特に「キレイ（ダ）」は 1 例しかない。このことから独歩は、2語に限られた作品にしか使用されないことが分かる。2語に関する漱石と独歩の比較研究は重要だと考える。
- (2) 各作品の用例数と使用率から見ると、紅葉『拈華微笑』『青葡萄』、四迷『めぐりあひ』『平凡』、鷗外『即興詩人』、一葉『われから』『ゆく雲』『たけくらべ』、鏡花『売色鴨南蛮』『日本橋』、独歩『わかれ』『武蔵野』、花袋『蒲団』『生』『ある僧の奇跡』『田舎教師』、漱

石『虞美人草』『三四郎』、左千夫『守の家』は用例数が多く、使用率も高い。特に鷗外『即興詩人』、花袋『田舎教師』、漱石『虞美人草』『三四郎』などは、単語総数が10万語以上であるにもかかわらず高い使用率を示している。今後、これらを詳細に分析・検討する必要がある。

ちなみに、『日本国語大辞典 第2版』（小学館、2001）の「ウツクシイ」の項目には、③の意味として「きれいだ」と説明されている。一方、「キレイ（ダ）」の項目には、①の意味として「美しくはなやかなさま」、②の意味として「(前略) さっぱりとして美しいさま」と説明されている¹²⁾。これはまさに循環論法である。かつて筆者は、漱石の『吾輩は猫である』『三四郎』『明暗』など一部の作品を取り上げて調査したことがある¹³⁾。結果として、男性から見て好意を抱いている女性を対象とする場合は「ウツクシイ」を使用するようであり、意味・用法においても「美麗であるさま」に加えて、「精神的に気高いさま、感銘を与えるさま」が含まれることが分かった。しかし、一部の作品しか取り上げなかったため、必ずしも漱石における全体的な傾向と言えるものではなかった。

今後は、本稿で明らかになった2語の数量的分析を基点として、まずは用例数が多い、使用率が高いなど、特徴の見られた作品や作家を中心に考察を進める所存である。その上で、明治時代の作家たちの言語生活に関わる履歴を考慮しつつ論を深め、2語の意味・用法の解明につなげたいと考えている。

<注>

- 1) 蘇文鑫 「美に関する語彙研究史管見」(『ことばとくらし』27、2015年10月)。
- 2) 秋葉直樹 「〈きれい〉ということば雑感」(『野州国文学』3、1969年11月) p.77。秋葉は、近世の『日本永代蔵』『浮世栄花一代男』『好色一代女』『八笑人』『浮世物語』など27作品に使用される「キレイ」の用例39例を取り上げ、その意味を説明した。しかし「ウツクシイ」との微妙な意味の差については明らかにし得ていない。
- 3) 計量国語学会編『計量国語学事典』(朝倉書店、2009年)によると、計量国語学とは、「数学的方法を用いて日本語を研究する言語学の一分野」と説明されている。また、語彙に関する研究は計量語彙論とされる。関連の論文の多くは「〇〇の計量的研究(分析)」「〇〇の数量的研究(分析)」というタイトルとなっているが、「〇〇の計量的研究(分析)」は全語彙を対象とすることが多いようである。本稿は研究対象語をしばって分析しているため、「数量的分析」というタイトルとした。
- 4) 国立国語研究所編『雑誌「太陽」による確立期現代語の研究—「太陽コーパス」研究論文集—』(国立国語研究所報告122、2005年3月)による。

- 5) 上野隆生 「雑誌『太陽』の一側面について」（『東西南北』2007、2007年3月）p.252による。
- 6) 市村太郎 「雑誌『太陽』『明六雑誌』における程度副詞類の使用状況と文体的傾向」（『日本語の研究』第11巻2号、2015年4月）p.34による。
- 7) 〈表2〉の「その他」には、「文学理論作法」「評論集」「雑録」「英米文学」などが含まれる。
- 8) 『新潮文庫 明治の文豪』【CD-ROM版】（新潮社、1997年）。
- 9) 『現代日本文学全集』（筑摩書房、1954年）。他には『現代日本文学全集』（改造社、1926年）、『日本現代文学全集』（講談社、1963年）、『現代文学大系』（筑摩書房、1965年）、『明治文学全集』（筑摩書房、1965年）、『日本近代文学大系』（角川書店、1970年）、『筑摩現代文学大系』（筑摩書房、1977年）などがあるが、『現代文学大系』は『明治の文豪』の作家10名全員を扱っている上に、作家毎の作品数が最も多いため、これを取り上げた。
- 10) 樋口一葉の『うもれ木』は『ゆく雲』と同数で、「ウツクシイ」が2例看取されたが、省略に従った。
- 11) 単語総数（概数）は、「茶まめ」を利用して計算した。「茶まめ」は近代文語 UniDic が付与される形態素解析用のインターフェイスである。近代文語 UniDic は、国立国語研究所を中心に開発を行ってきた形態素解析のための電子的辞書である。
- 12) 『日本語国語大辞典 第2版』（小学館、2001年）第2巻p.341、第4巻p.619による。
- 13) 蘇文鑫「美に関する語彙の国語史的研究—夏目漱石における「ウツクシ」と「キレイ」を中心に—」（日本語学会、2015年10月、山口大学）。

主指導教員（鈴木恵教授）、副指導教員（磯貝淳一准教授・岡田祥平准教授）